氏　　名	濵野　　強
学位の種類	博士（医学）
学位記番号	甲第４０３号
学位授与年月日	平成２５年３月２１日
審査委員	主査　教授　　田邊　一明
	副査　教授　　藤田　委由
	副査　教授　　石橋　　豊

論文審査の結果の要旨

高血圧症は，脳卒中と冠動脈疾患の最も重要な危険因子であり，脳卒中発症の62%，冠動脈疾患の46%に寄与することが報告されている。我が国の高血圧症患者は，4,000万人と推定されており，全人口の3分の1を占めている。高血圧症の危険因子としては，生活習慣，環境要因，社会経済的要因，遺伝素因が挙げられるが，環境要因，特に居住環境についての報告はきわめて少ない。

そこで申請者は，2006-2009年に雲南市民を対象に実施した健康調査の同意者1,348人について，居住環境と交通手段が高血圧症に及ぼす影響について検討を行った。居住環境は，自宅住所を緯度と経度に置換し，地理情報システム（ArcGIS, ESRIジャパン株式会社）により島根県庁所在地から同自宅住所地までの道路距離（以下，道路ネットワーク距離），及び自宅住所地の標高を算出した。交通手段は，日常生活での車使用群と非使用群に分けて解析を行った。その結果，車非使用群では，道路ネットワーク距離の増加に伴い薬物治療中，または血圧管理中の高血圧症のオッズ比が有意に上昇した。一方で，車使用群では，道路ネットワーク距離と高血圧症に有意な関係を認めなかった。また，標高は，車非使用群と車使用群で高血圧症と有意な関係を認めなかった。

以上の結果より，中山間地域では，居住環境と交通手段の相互関係が高血圧症のリスクとして存在していることが明らかとなった。この成果は，個人特性と地域特性を踏まえた高血圧症の予防策を考える上で重要な知見と考えられる。